

木彫による造形研究 2017

クロッキー&ドローイング

岩井 義尚 *Yoshinao Iwai*

(美術学部)

作品の形の素は、「自然のモノをデッサンしていると、その源は球体、それも機械的な球体ではなく、心地良い球体の単体又は複合体である」と考える。私の創作は、この考えを基に「視覚に訴えかけるのに重要である水平要素・垂直要素」そのものが創り出す空間」を使い構成している。



第40回 中部二元会展 2018.2.6～2.11

東桜会館ギャラリー(名古屋市)

テーマ；「動き」「流れ」「生」

立体作品における制作は、テーマからイメージし、形の根源を動物（人も含む）・植物・自然現象から創作要素を探り、構成を考慮し、素材（木）を彫ることにより形（Form）を創り出す手法で具現化した単体又は集合体で表現している。

平面作品は、ペンで描く多くのフリーハンドの線の重ねにより、人物を構成し、立体作品に影響するエスキースの要素を含むドローイングと人体クロッキー（各種描画素材）により、テーマを表現する研究をしている。

Form 1704 「遊No.11」
樟 (クス)
台座; 樺 (ケヤキ)
H56×W24×D20 (cm)

ペン画のドローイングを基に、素材の木材・樟 (クス) 材へ、子供の絡み合う形で「躍動」「生」を表現した。



Form 1705
樟 (クス)
台座; 樺 (ケヤキ)
H40×W46×D35 (cm)
台座別

原木 (学生が制作断念した材) を見てからアイデアスケッチを描き制作した Form 1705 は、樟 (クス) 材の一木作りの作品で、やわらかい厚い布の一ヶ所を紐で縛って変化をつけて中身が溢れてくる瞬間を捉えて彫り出し、「動き」を表現した。
(中部二元会研究展出品 名古屋市民ギャラリー)





1989年頃のアイディアスケッチ



左側は、制作最終段階の角度を変えた4つの画像である。

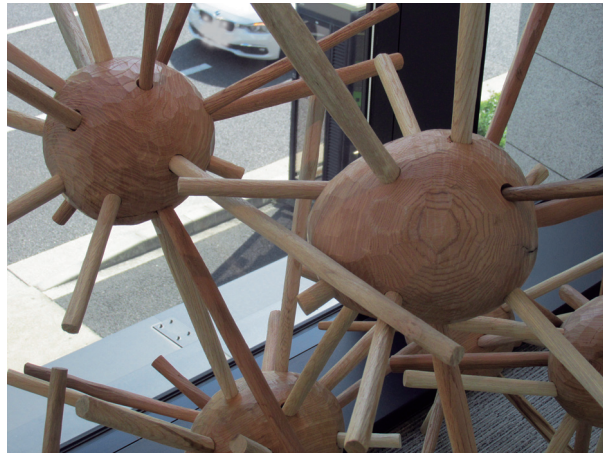
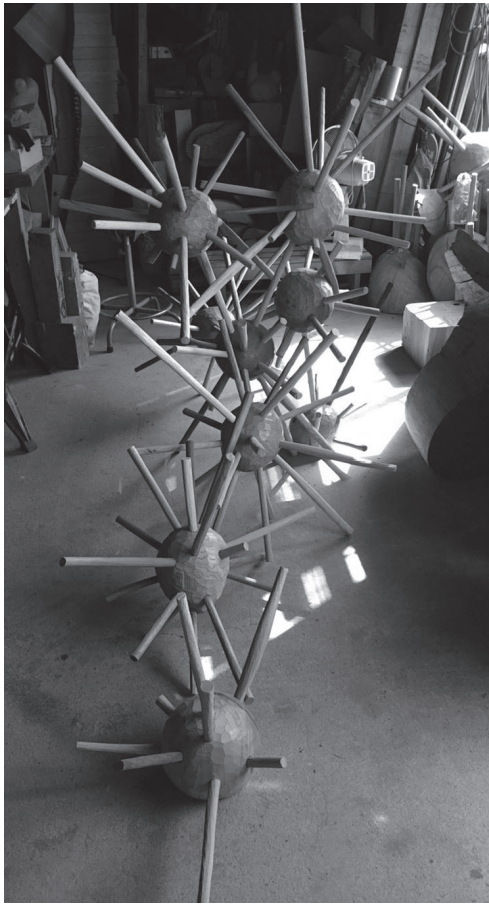


Form 1801 「遊No.12」
 樟（クス）
 台座；ブラックウォール
 ナット
 H75×W70×D12（cm）
 台座別

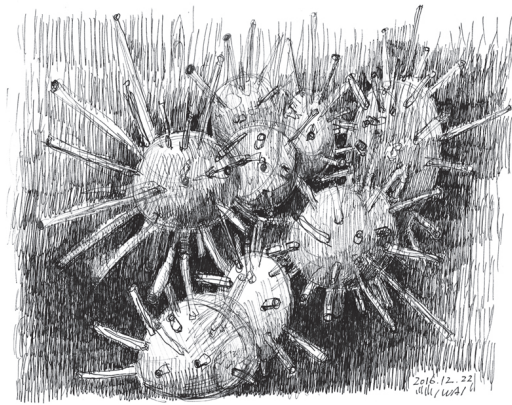


Form 1801「遊No.12」は、遊シリーズ12番目の樟（クス）材の一木作りの作品で、自然の木の形の中から三人の子供が戯れる「動き」を彫り出して人と人との「つながり」表現した。発端のアイディアは、1989年頃のアイディアスケッチからのものである。

（中部二元会展出品 名古屋市東桜会館）



Form 1701 変形
ケヤキ+イチイ+チーク+タモ 他
H138×W240×D70 (cm)

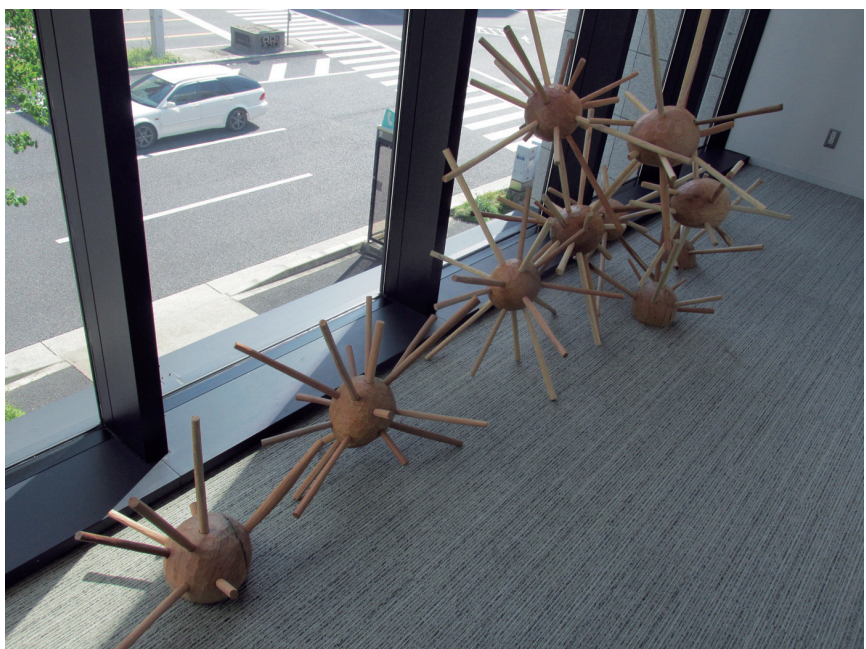


このアイディアスケッチは、「Form 1701」を制作する時に同時に描いたものの一つで、「Form 1701 変形」制作の基になっている。

この「Form 1701 変形」は、ちゅうしんアートギャラリーの24回目の作品展のために会場に合わせ、2016年度に発表した「Form 1701」の主たる部材を用いて、制作のコンセプトを維持した作品で、「動き」と「生」を視覚的に表現した。



中部二元展での「Form 1701」



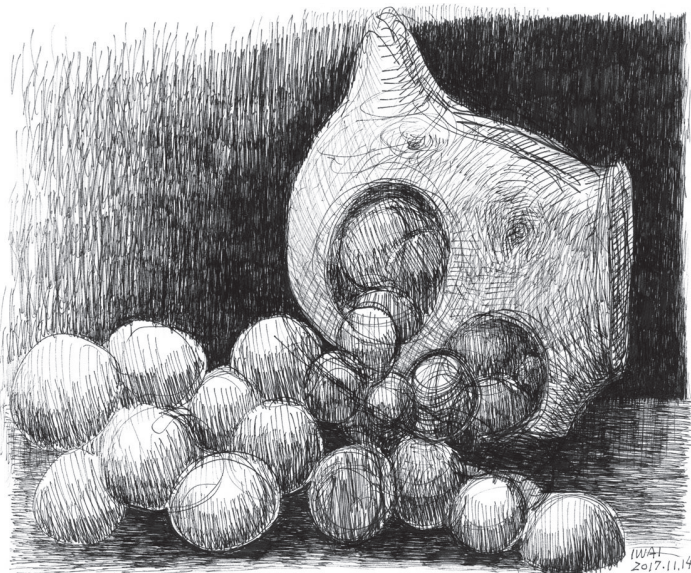
ちゅうしんアートギャラリーでの「Form 1701 変形」

**クロッキー
(デッサン)**

現在所属している中部二元会の研究会での成果で、和紙や上質紙に筆ペンを主に色はパステルで、「動き」「流れ」「量」を意識して描いている。同会の研究展出品及びクロッキー・デッサンの講師をしている「Art of 20 歩」の会の作品展に賛助出品している。

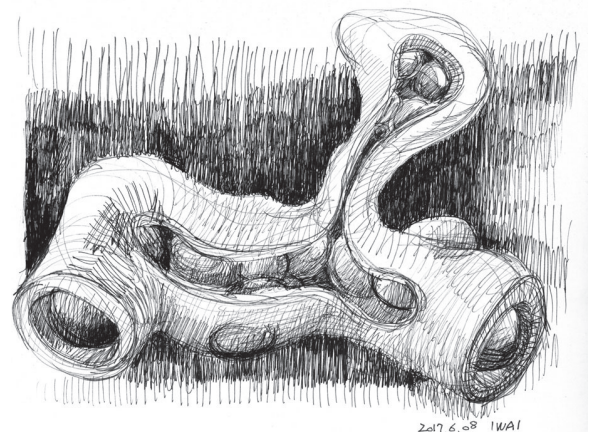


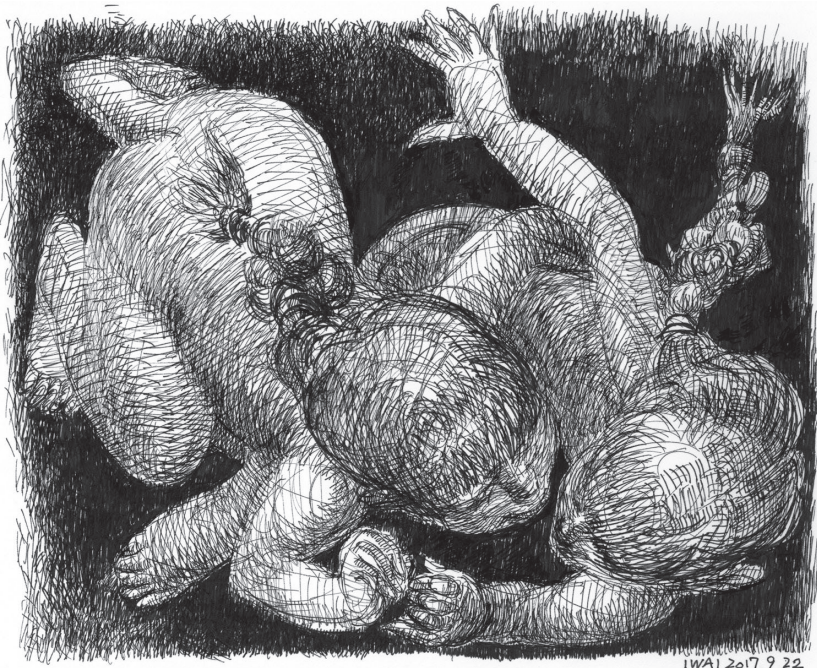
H35×W130 (cm) の和紙に筆ペン (カラーブラッシュ) とパステルを使用



ドローイング

これらのペン画は、立体作品のために平面考察したもので、素材が優先し、アイデアを考察したドローイングで、「動」や「つながり」を特に意識し表現している。





ドローイング

これらのペン画は、立体やレリーフ作品のためのアイデアを平面考察したもので、浮遊した子供の形を借りて、「流れ」や「躍動」を特に意識し表現している。

「Art of 20 歩」の会の作品展及び「ちゅうしんアートギャラリー」の作品展（中日信用金庫・名古屋支店）に出品している。

